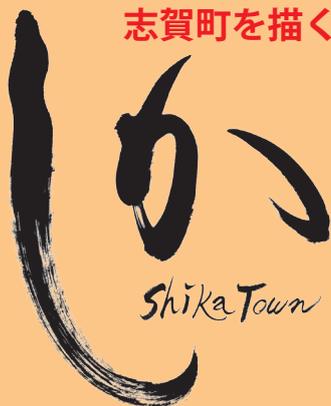




志賀町を描く美術展 大賞 「昼さがり」 表 昌光氏 (かほく市)



INDEX

「第 23 回志賀町を描く美術展」	2～3
特集 自主防災組織	4～7
秋の叙勲・表彰	8
まちかど News	12～13
主な公共施設の年末年始休業の案内	14
しかチャンネルガイド	24
みんなの広場	28



12
2011
No. 76

志賀町の美しい自然や生活などを描き、

芸術文化の振興と志賀町の再発見を願って

「第23回志賀町を描く美術展」が開催される

23 回目を迎える「志賀町を描く美術展」。この美術展は、

絵画を通して、志賀町の美しい自然をはじめ、風景、風土を、美しく、力強く、魅力的に表現した志賀町の発見を目的に開催しています。

今回の美術展では225点の作品が出品され、11月20日(日)に行われた表彰式では大賞をはじめ、41人の入賞者に賞状などが手渡されました。

また11月20日(日)から27日(日)までの8日間、富来活性化センターで富来展が開催されました。会場は洋画や日本画などの力作で埋め尽くされ、訪れた人たちは食いつまむように作品を見つめ、志賀町の普段目にする風景とは違う魅力に引き込まれているようでした。

志賀町を描く美術館長の山口繁樹さんは、「今後は志賀町の風景、風土について、明るく、楽しい、元気な絵を描いてもらえると嬉しいな

作品

北國新聞社賞



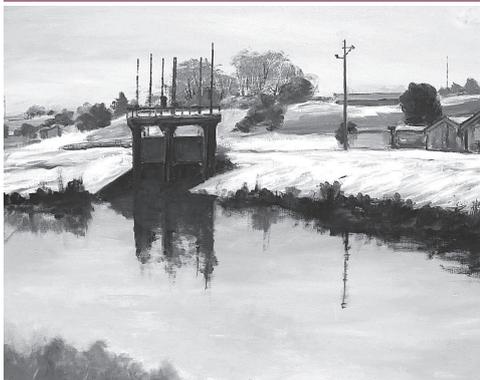
「巖門」
村上 有輝 氏 (金沢市)

石川県知事賞



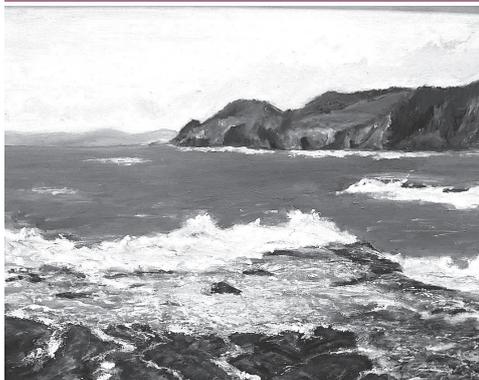
「春待つ福浦灯台」
鈴木 朴草 氏 (志賀町)

金沢美術工芸大学長賞



「雪の日の水門」
東 洋 氏 (金沢市)

テレビ金沢賞



「猪鼻崎の展望」
南部 寛 氏 (白山市)

志賀町商工会長賞



「波音」
桶谷 紫乃 氏 (金沢市)

審査委員長賞



「閑日〔1〕」
平山 利雄 氏
(七尾市)

美術展を開催していきたい」と話しました。

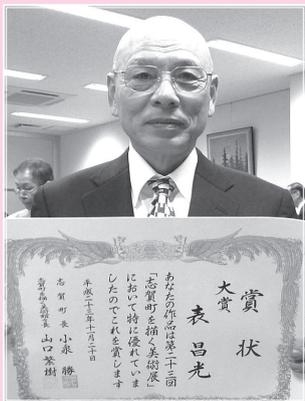
12月9日(金)から13日(火)の5日間、石川県立美術館第8・9展示室で金沢展(入場料無料)が開催されます。富来展の作品を見ていない人は、ぜひ金沢展に足を運んでみてください。志賀町の魅力について、芸術をとおして堪能してみるのがいいかもしれません。

大賞受賞

表 昌光氏 (かほく市)

第21回に出品した作品からコロ柿をテーマに描きはじめてました。コロ柿の色使いや、おばあちゃんの表情、前掛けを丁寧に描きました。

15回以上出品してやっと大賞を頂き、とてもうれしく思っています。



受賞

石川県漁業協同組合西海支所運営委員長賞



「海の祭(富来)」
谷 和弘 氏(能登町)

富来商工会長賞



「弁天島の朝」
大橋 由紀恵 氏(金沢市)

志賀農業協同組合長賞



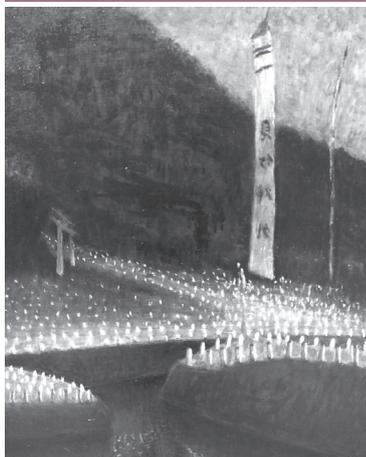
「明日への想い」
毛藤 東紀男 氏(金沢市)

能登の里山・里海賞



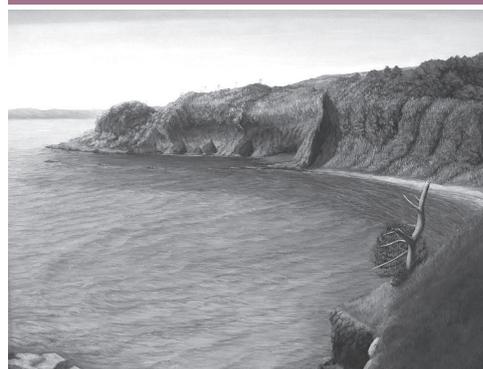
「福浦の港」
浅井 忠夫 氏(七尾市)

新発見賞



「長田見竹神社萬燈祭」
北村 栄修 氏(能美市)

特選



「海を望む」
高柳 惟 氏(金沢市)

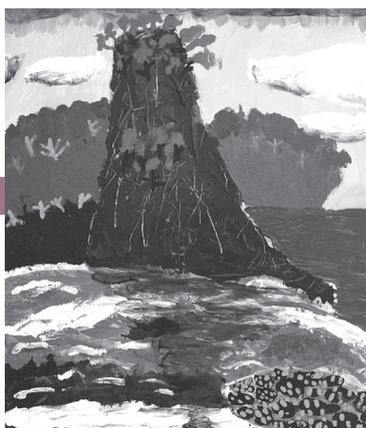
志賀町を描く美術館長賞



「のとキリシマ」
須磨 伊佐男 氏(志賀町)

ジュニア賞

「小さな大きな岩」
土田 郁子 氏
(七尾市)



今回掲載した作品は、数ある受賞作品の中から一部を選んで掲載しました。他にも素晴らしい作品が展示されていました。

自主防災組織

自分たちの地域は自分たちで守る

▼自主防災組織とは

地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。自主防災組織は、日頃から災害に備えたさまざまな取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止め、住民が連携を取り、互いの身を守るための防災活動を行います。

▼共助Ⅱ自主防災組織

災害時の「自助・公助・共助」という言葉を聞いたことがありますか？

「自助」とは、自分の身は自分で守ること。「公助」とは、公共の防災機関、例えば消防、警察、自衛隊による災害時の救助活動です。「共助」とは、自分たちの地域は自分たちで守るということです。

災害時、「公助」は住民のために全力で行われなければならないませんが、この公助だけでは限

界があり、大規模災害が発生した場合、「自助」という、一人だけの力にも限界があります。

そこで、「自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る」、地域の人々のまとまった力による「共助Ⅱ自主防災組織」が必要になってきます。この「まとまった力」は、ただ待っているだけでできるものではなく、地域の人々の意思と協力で作られるものです。

▼自主防災組織の必要性

災害が発生した時に、行政機関や防災機関が全力で防災活動に取り組みますが、建物などの倒壊や津波による災害などで、防災機関が現場にたどり着くまで時間を要したり、場合によってはたどり着けないといった可能性があります。

そこで、災害が発生した場合、防災機関が現場に到着し活動するまでの間、被害の拡大を防ぎ、周囲の人の力を結集して活動することが重要です。個人や家族の力だけでは限界があり、

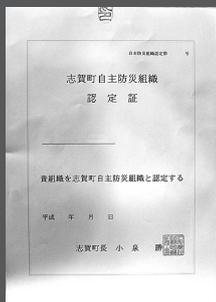
自主防災組織の 結成手順（例）

町内会や自治会単位などで、自主防災組織の結成について話し合う。

町内会や自治会の総会で、自主防災組織の結成案を議題とし、討議・可決する。

規約、組織（役員や班体制）、活動計画を作成する。

自主防災組織の設立届出をする。（志賀町の場合は生活安全課に提出）



志賀町が発行する
自主防災組織認定証

自主防災組織の活動を開始する。

危険な面もあることから、隣近所の人たちが互いに協力し合い、防災活動に取り組むことが必要です。

自主防災組織の役割

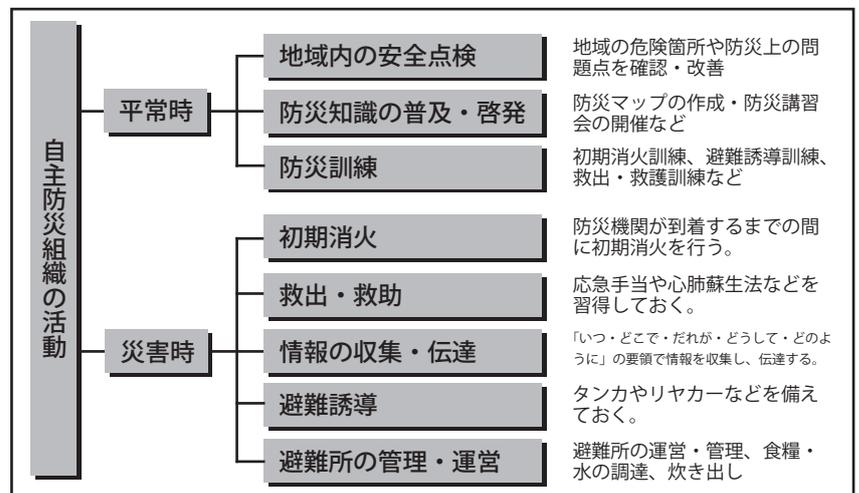
平常時は、地域の危険性や家庭内での安全点検および各種の防災訓練を通して、日ごろから大規模な災害に対応できるよう備えるための活動を行います。災害時には、人命を守り、災害の拡大を防ぐため必要な活動を行います。自主防災組織の主な活動は（図1）のとおりです。災害が発生した場合、被害を最小限に抑えるために、自主防災組織が初期活動を行います。

自主防災組織の結成

自主防災組織は、地理的条件、生活環境などから見て、地域として一体性を有する大きさが最も効果的に活動できる規模とされています。

そのため、自主防災組織の多くは、町内会や自治会ごとに結成されています。

（図1）



防災資機材などの備蓄

自主防災組織が情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導、給食・給水などの役割を果たすためには、必要な資機材などを備えておかなければなりません。

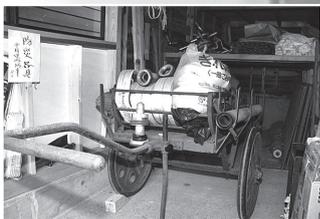
自主防災組織に必要とされる主な防災資機材の例



上記はあくまでも一例ですので、地域の実情や組織の構成に合わせて、どのようなものを備えるかは検討する必要があります。

「自主防災組織」

なり活動している2人に、自主防災組織



千鳥ヶ浜集会場に隣接する防災倉庫内にはリヤカーが収納されている。

高浜6区防災会ではさまざまな防災活動を実施している。6月に行った避難誘導訓練では、区内の道路が狭いため、地震発生時にブロック塀が倒壊し細い道は通行できない想定のもと、遠回りでも安全な道を選んで避難するといった訓練を行った。また、津波が発生し、避難先が高浜小学校（海抜14メートル）となった場合を想定し、升田さん自身が歩いて移動にどれくらいの時間がかかるか

志 賀町で自主防災第1号の認定を受けた高浜6区防災会。発足のきっかけは、過疎化と高齢化が進む今、安心・安全なまちづくりを作るためにはどうしたらいいかと考えたとき、防災セミナーや防災をテーマとした県政出前講座を区民數十人で受講し、防災に強いまちづくりを実現しようと考え、高浜6区防災会が発足した。

高浜6区防災会
高浜6区長
升田 勝さん
防災士（平成22年8月23日取得）

実践してみたという。しかし、「実際、避難者の中には高齢者もいることから時間はまだまだかかるだろう」と升田区長。「今後は、高齢者などの避難手段について考えていかなければならない」と話した。

防災意識の啓蒙活動では、災害が発生した場合、区民の安全や救出、避難所運営などの基礎資料とするため4月に家族状況調査を行った。家族状況調査は、随時更新する予定で次の調査では、常備薬を服用しているかどうかの項目も含めて調査する予定だ。常備薬を服用している場合、薬局から発行される薬の内容が記載されている紙も、避難グッズと一緒に備えておくことを周知する予定だという。

7月には、ホース格納箱を2個増設。その際、ホース格納箱の横に防災箱3個を設置した。ホース格納箱には消火器が配備され、防災箱は黄色に塗られ、ボール・ノコギリ・ジャッキ・ロープなどが入っている。この防災箱はもちろん鍵がかかっていないが、簡単に開けられないようにしてあるため、開け方の講習会も消火栓連結講習と同時にやっている。また、高浜6区から避難所までの等高線および消火栓の位置が把握できる防災マップや高浜6区地区内除雪対象道路図も備える。

今後の高浜6区防災会としての活

動予定は、要援護者マップの作成、減災の啓蒙活動として防災に関する資料などを随時作成し各世帯へ配布する。また、毎月第一日曜日を高浜6区の「防災の日」として、消火設備などの防災器具の点検などを実施したいとのことだ。

区民に対して防災意識の向上、独自の防災手段で防災活動を行っている高浜6区自主防災会。升田区長は「今後は、町内にも自主防災組織がどんどん増えることを期待したい。そして、自主防災組織同士で発表会を行いお互いの防災活動について情報交換することによって、互いの組織にとってプラスになるのではないかと話した。



要援護者マップの作成、減災の啓蒙活動として防災に関する資料などを随時作成し各世帯へ配布する。

のすべてが必要。防災について絶えず意識することによって知識や技能が養われる。」

「防災士」という資格を

知っていますか？

防災士とは、平常時においては地域の防災意識の啓蒙、防災力の向上に努め、災害発生時には行政機関や防災機関などが到着するまでの間、被害拡大の軽減や被災者支援の活動においてリーダーシップを持って行う人です。特定非営利活動法人「日本防災士機構」の認定する民間資格で、平成15年に制度化されました。志賀町では19人の防災士がいます。（平成23年11月17日現在）

「防災士」資格取得の流れ

日本防災士機構が認証した研修機関へ申し込み
防災士教本で防災士養成科目を履修し、履修証明書を取得



防災士資格取得試験の受験
防災士資格取得試験の合格

しています。
は生活安全課まで相談してください。（受講費は石川県と志賀町が負担）

わたしたちのまちの

防災士を取得し、自らがリーダーと
 中での防災活動などについて追った。



鹿頭区自主防災隊の防災倉庫
 (西浦コミュニティセンター横)

鹿頭区

鹿頭区長が平成22年8月、防災士の認証を受け、鹿頭区における自主防災組織の結成が加速された。もともと鹿頭区の中には簡易に構成された防災組織が存在していた。しかし、今までの防災組織を見直して、機能的に動けるような体制を作るため、町から自主防災組織の認定を受け「鹿頭区自主防災隊」が誕生した。

発足式は平成23年3月12日。東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらした東北地方太平洋沖地震発生の日であったこともあり、発足式によって、区民の防災に対する意識が一段と高まった。

鹿頭区自主防災隊

鹿頭区長 **田中 瑞穂** さん

防災士 (平成22年8月23日取得)

自主防災組織結成後は、心肺蘇生実習、初期消火訓練を行った。鹿頭区自主防災隊には、災害発生時に情報をいち早く収集し区長などに報告する「情報班」、火災発生時に初期消火活動を行う「消火班」、災害時は炊き出しを行い、平常時は備蓄の啓蒙などをする「給食給水班」、避難場所の提案を行い災害時には避難所への誘導などを行う「避難誘導班」、子ども、高齢者、障害者などの状況を把握し、災害時には救出救護にあたる「救出救護班」、鹿頭区には8つのため池がありそのため池の管理をするなどの「水防班」の6つの班を編成し、各班で活動内容について打ち合わせを行っている。

約130世帯、290人余りが住んでいる鹿頭地区は、高齢化率が高く高齢者世帯が多い。そのため、災害時、単独での避難が困難な人を把握する、「援護者名簿」を作成。災害時に必要になる可能性がある「はしご、ボール、のこぎり、ハンマーなど」これらの資機材が調達できない場合、組織が世帯から借り上げるものをあらかじめ決めておく、「防災資機材借り上げ名簿」を作成し、区民に配布し周知している。また、ため池決壊時の避難先を示した「ため池災

害マップ」を作成している。

これからの自主防災組織について、田中区長は「もちろん、平常時の防災に関する訓練や、災害時の自主防災組織の活動も必要だ」と話す。しかし、高齢化が進み高齢者世帯が増加しているこの地域について現在の民生委員だけの対応では限界があるのではないかと考える。「民生委員が、高齢者世帯などを訪問し現況の確認を行ったり、冬季には家の前の除雪を行ったりしているが、今後は自主防災組織や区が高齢化に対応するため協力し合う体制の確立が重要になってくると思う。」と共助に向けた取り組みを強化していく考えだという。



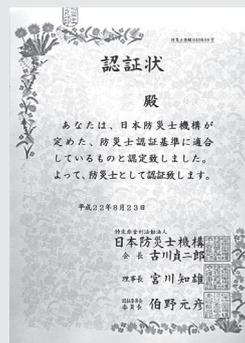
ため池災害避難マップ

志賀町の自主防災組織認定団体

地区名	防災組織名	結成日
高浜6区	高浜6区防災会	平成22年11月3日
西海風戸	西海風戸自主防災組織	平成23年10月16日
鹿頭	鹿頭区自主防災隊	平成23年1月1日
笹波	笹波区自主防災隊	平成23年4月1日

(平成23年11月17日現在)

防災士とは、「防災についての意識と知識と技能



消防署などの公的機関が行う救命講習を受講し修了証を取得
 日本防災士機構に対して防災士資格認証登録申請
 防災士資格認証登録
 (認証状・防災士証の交付)

石川県では自主防災組織リーダー(防災士)育成講座を毎年開催
 自主防災組織の結成を予定している地区の区長または代表者の人